

平成26年度 学力向上アクションプラン

1 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 全体の傾向

前年度まで学年によるばらつきが見られたが、今年度は学年によるばらつきがみられない。特に生活意識、学習意識が全体的に市平均を少し上回る結果となっている。学力については、昨年度に引き続き、市平均に近づきつつある。各教科共に学習が好きと答える子どもの割合が大変高い。この学習意識の高まりを学力向上につなげられるよう、さらにきめ細かな指導の継続を図りたい。

(2) 学力調査結果

- ・国語では、漢字を正しく読んだり、書いたりする力は、市の平均と比べ高くなっている。しかし、長い文章を読み解く力に欠け、内容を取り違えたり最後まで読み切れなかったりする児童が多い。
- ・算数では、計算やきまりなど基礎基本的な力がついてきている。しかし、その力を活用する力が低いことから、比べ方や表し方を考えたり、図や式等を使って論理的に説明したりする力を身につける学習活動を大切にしていきたい。今年度も朝自習を使ったスキル学習、家庭学習の奨励、少人数指導等でのきめ細かな指導の継続を図る。

(3) 学習意識調査結果

- ・勉強が好きと答える児童が全学年で多い。特に社会、理科、音楽、図工が好きと答える子どもが多い。

(4) 生活意識調査結果

- ・学校の授業以外に、休日を含めて勉強に費やす時間が少ない傾向がある。
- ・運動に費やす時間は長い、学習に費やす時間が短い。
- ・自分には、よいところがあると思うと答える児童が増えてきてはいるが、市の平均と比べるとまだ低い傾向にある。
- ・外国人の先生が話していることがあまり分からないと答える子どもが多い。
- ・家庭での学習時間が短く、習慣づいていない。また、読書に費やす時間が少ない。

(5) 経年変化の状況と要因の分析

- ・自分の思いを表現できるようになってきている。引き続き、思いを自分の言葉で表現し相手に伝える体験、学習経験を積ませる。
- ・1昨年度より進めてきた朝自習、家庭学習の効果が計算、漢字において表れてきている。今後も続けていくとともに、基礎的な力を活用できるようにしたい。

2 今後の方向

最優先課題

- 1 児童一人ひとりの学力をていねいに把握し、それに合わせたわかりやすい授業の展開と個に合わせたスモールステップの工夫
- 2 学習することの喜びや満足感を味わうことのできるような単元づくり、教材研究
- 3 読書を習慣化させるための取組の工夫
- 4 家庭との連携を密にし、家庭学習の習慣化を図る

3 平成26年度 具体的方策

確かな指導技術に支えられた課題解決的な学習の充実(平成25年度目標)

～自信をもって主体的に学ぶ児童の育成～

(1) 教職員一人ひとりの授業力向上への取組

- 校内研修・研究などを通じた授業改善
 - ・学年研では、行事の打ち合わせのほか、各教科の指導計画作りなど教材研究を充実させる
 - ・研究授業は学年内で十分に検討してから臨み、本時の課題を共有化する
- 教材・教具の研究・開発や情報の共有化
 - ・学年での教材研究を充実させる
 - ・特別活動で培った話す力を他教科でも生かしていく
 - ・フリーソフト、プリントなどの教育資源をNASで共有する(教科・学年フォルダで管理)
 - ・「はまっ子学習ドリル」を活用する
- 個に応じた指導の充実
 - ・個の学力状況を把握し、楽しくわかりやすい指導法を工夫する
 - ・4年生からの算数少人数制の授業を生かし、算数授業の充実をめざす
- メンターチームの若手教員育成プロジェクト
 - ・授業力向上を目指した教材研究、校内研究授業を実施する
 - ・和やかな雰囲気の中にも、互いに切磋琢磨し、指導力向上をめざす

(2) 学校組織としての取組

- 授業を支える生活習慣の徹底
 - ・学校便り、保健便り、懇談会を通して家庭への啓蒙を深め、学校と家庭との連携により基本的な生活習慣を身につけさせる
 - ・職員からの声かけを強化したあいさつ指導と生活目標、保健目標の意識化に力を入れる
 - ・読書習慣を身につけさせるために、毎週金曜日の朝読書や読書週間の充実を図る
 - ・生活スタンダードを共通理解し、職員全体で指導する
- 個に応じた指導の充実
 - ・横浜市学力・学習状況調査の結果分析し、積極的に活用する
 - ・理解度の確認と実態把握の手だてとして授業のはじめや終わりでの小テストなどを取り入れる
 - ・週3回(月、水、木)の朝自習では、計算・漢字学習を繰り返し行い、基礎学力を向上させる
- 家庭学習の習慣化
 - ・「はまっ子学習ドリル」「はまっ子学習検定システム」の活用を呼びかける
 - ・引き続き、漢字や計算などの宿題を毎日出し、家庭での学習の習慣づけと基礎学力の定着を図る
- 研究・研修体制の構築(校内重点研究は特別活動)
 - ・豊かななかかわりの中から自信をもち、思いを生き生きと表現し伝え合おうとする子を育てていく
 - ・お互いを認め合いながら、集団決定していく力を身につけさせる
 - ・友だちのよさやがんばりを認め、次に生かしていくことができるよう指導する
- 学校評価の充実
 - ・授業参観、行事への参加、参観を通し、保護者や地域の学校への評価を前向きに受け止める
 - ・横浜市学力・学習状況調査の結果分析をし、指導に生かしていく
 - ・プランの評価、検証をする